

2016年 2月 7日

全国ブロック選抜U-12 体操競技選手権大会  
2013年版採点規則 (2016年改訂版)

公益財団法人 日本体操協会  
審判委員会体操競技男子審判本部

○ 作成のねらい

12歳以下の選手のためのU-12採点規則は、常に『美を競う』という体操競技の本質に照準をあて『姿勢の美しさ』、『動きの美しさ』を優先して評価できるよう考慮して作成した。中学生から高校生そして大学生へと将来を見据えたなかで、特にジュニア期に培わなければならない、選手としての美しい体づくりや基本的な技の習得が評価されることになる。この時期は特に美的面、技術面を無視して難度だけを求めるべきではない。

よく伸びたつま先や膝、柔軟な肩のライン等、体線の美しさは、大人になってからではなかなか修正できない。あん馬の旋回や鉄棒の車輪の持ち味もこの時期に基本が形成され、それらは将来、選手にとって大きなアドバンテージになる。

指導者の方には、この大会に出場する年代の成長過程を考慮し、規則に縛られることなく『姿勢の美しさ』、『動きの美しさ』の獲得を目指して指導していただきたい。

審判員は、一般の採点規則はもとより中学校規則にも精通し、技の難度や難しさに評価が偏ることなく（難度志向への傾斜の抑制）、幅広いジュニア層の段階的指導の道標を示すべく、『美しい体操』に評価基準をおいてこの採点規則を適用していただくようお願いする。

選手の身長の変化を加味し、跳馬と平行棒の高さの変更を致しましたので、巻末の器械器具の寸度を確認して下さい。

1. 得点の構成および難度要求

- 1) ゆか、あん馬、つり輪、平行棒、鉄棒の演技は次の配点により構成される。

難 度	2.40
特別要求	1.00
加 点	0.60
実 施	6.00
合 計	10.00

- 2) 跳馬以外の5種目において次の技数を要求する。

8技（1技につき $0.30 \times 8 = 2.40$ ）

技不足に対する減点は、1技につき0.30である。ただし、採点規則2013年版で難度表に記載されていない基本技についてもジュニア選手の健全な発展を考慮し1技として数える。例えば、ゆかの側方倒立回転やロンダート、鉄棒の足裏支持回転倒立、後方宙返り下りなどである。

- 3) 技の認定と繰り返しについて

- a) 全ての技は、2回まで価値部分を認定する（1回の繰り返し）。

## 2. 特別要求

演技は、次の要素を含んで構成しなければならない。

- 1) 跳馬以外の種目は、5種類の要素を要求する。1つ欠けるごとに0.20の減点となる。

※採点規則2013年版の要求グループの枠を越えて各要素を認めることができる。ただし、1技で2つの要素を満たすことはできない。

### a) ゆか

- ① 前方系のアクロバット技
- ② 後方系のアクロバット技
- ③ 片脚上でのバランス技（2秒静止）
- ④ 倒立静止（2秒静止）
- ⑤ 柔軟性を表現する技

### b) あん馬

- ① 両把手上での旋回技
- ② 片足振動技（正交差や逆交差でなくて良い）
- ③ 移動技
- ④ 馬端部での技
- ⑤ 終末技

### c) つり輪

- ① 懸垂前振りを経過する技
- ② 懸垂後ろ振りを経過する技
- ③ 倒立静止（2秒静止）
- ④ 倒立を除く静止技
- ⑤ 終末技

### d) 平行棒

- ① 支持振動技
- ② 腕支持振動技
- ③ 懸垂振動技または棒下系の技
- ④ 倒立静止（2秒静止）
- ⑤ 終末技

### e) 鉄棒

- ① 前方車輪
- ② 後方車輪
- ③ 懸垂振動ひねり技
- ④ 支持回転技
- ⑤ 終末技

## 3. 加点（跳馬以外の種目）

- 1) 0.60まで与えることができる。
- 2) 優れた演技構成に対して最大0.20まで与える。

3) 熟練性として最大0.40 まで与える。熟練性に対する加点は、以下の要素から考慮される。

- ・姿勢の美しさ
- ・最大限の振幅を利用した振動技
- ・卓越した雄大さ
- ・演技全体を通してのリズミカルな動き
- ・安定した着地

#### 4. 跳馬の採点

1) 跳馬においては、以下の表のようにそれぞれの跳越の基礎点を定める。

a) 前転とび（ヤマシタとび）群

- ・前転とび・・・・・・・・・・・・・・・・・・9.40
- ・前転とびひねり・・・・・・・・・・・・・・・・9.40
- ・前転とび1回ひねり・・・・・・・・・・・・9.60
- ・前転とび3/2ひねり・・・・・・・・・・・・9.70
- ・前転とび前方宙返り・・・・・・・・・・・・9.80

b) ツカハラとび群

- ・かかえ込みツカハラとび・・・・・・・・・・9.60
- ・屈身ツカハラとび・・・・・・・・・・・・9.80

c) 開脚とび・屈身とび群

- ・開脚（閉脚）とび・・・・・・・・・・・・8.60
- ・屈身とび・・・・・・・・・・・・・・・・・・9.00
- ・伸身とび・・・・・・・・・・・・・・・・・・9.40
- ・伸身とび1回ひねり・・・・・・・・・・・・9.60

2) 安定した着地や、優れた跳越に対して0.20 までの加点を与える。

3) 距離や馬体軸からの外れに対する線は引かない。しかし、飛距離および馬体軸からのずれに対する減点はある。これらは、競技会のレベルを考慮し審判員が判断する。

#### 5. 禁止技について

以下の禁止技を実施した場合、その技は認定されない。

- ・ゆ か：前方宙返り転（後ろとびひねりからも含む）  
前方2回宙返り（後ろとびひねりからも含む）  
後方2回宙返りにひねりが加わった技
- ・跳 馬：2013年版採点規則「跳越グループⅢ、Ⅳ、Ⅴ」の技  
ツカハラとびにひねりが加わった技  
前転とび前方宙返りにひねりが加わった技
- ・鉄 棒：前方2回宙返り下り  
後方2回宙返り下りにひねりが加わった技  
後方3回宙返り下り

6. 補足

- 1) 競技方法は個人総合選手権（男子6種目）自由演技。
- 2) その他の規則は2013年版採点規則および中学校適用規則に準じる。  
減点は、小欠点：-0.10 中欠点：-0.20 大欠点：-0.30 落下：-0.50とする。
- 3) 9.50以上の場合、0.05採点が認められる。
- 4) あん馬の特別要求②片足振動技は、交差技を要求していない。対象となる選手の身体成長を考慮し、片足での振動による入れ・抜きでもこの要求を満たす。また、片足もしくは両足による入れ・抜きの連続で1技として認定する。
- 5) つり輪において演技として実施しようとしていることが認められた場合、懸垂前振り～懸垂後ろ振り（またはその逆）を1技として認め、半中間振動の減点をしない。その他、無価値な振れ戻りに対する減点は、適用しない。
- 6) 平行棒において演技として実施しようとしていることが認められた場合、支持前振り後ろ振り倒立は、半中間振動の減点をしない（後ろ振り倒立は技として認定される）。その他、無価値な振れ戻りに対する減点は適用しない。
- 7) 器械器具の寸度

ゆ か	12m×12m	
器械種目	床面からの高さ	マットの厚さ
あん馬	115～116cm	10～12cm 演技開始時に40cmまでの補助マットを使用可
つり輪	265cm	18cm または 20cm
跳馬	120cm	18cm または 20cm
平行棒	175cm	12cm
	187cm	20cm
鉄棒	265cm	18cm または 20cm

※ つり輪、跳馬、鉄棒については、着地マットの使用を認める。

※ 器械により±2cmを認める